

# 洗足学園音楽大学

## 大学院弦楽器コンチェルト研究演奏会

2023年2月28日(火) 14:30開演(14:00開場)

洗足学園音楽大学 シルバーマウンテン2階

指揮：山本 祐ノ介

【李相昊】

F.メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 第1楽章

【許露露】

G.エルガー / チェロ協奏曲 第1楽章

【喻祥洲】

A.ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 第2楽章

【加藤 可奈子】

P.ヒンデミット / 白鳥を焼く男 第3楽章

— 休憩 —

【筱崎 愛】

W.A.モーツァルト / ヴァイオリン協奏曲 第5番 第1楽章

【工藤 海青】

A.ロッラ / ヴィオラ協奏曲 in E FLAT BI 545 Andante

【蛭原 一智】

A.ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 第2楽章

【宋戸 育実】

P.I.チャイコフスキー / ヴァイオリン協奏曲 第1楽章

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

## ■ 曲目解説

### F.メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 第1楽章

メンデルスゾーンが1844年に作曲したヴァイオリンと管弦楽のための協奏曲である。本作品は、ベートーヴェンの作品61、ブラームスの作品77と並んで、3大ヴァイオリン協奏曲と称される。第1楽章 アレグロ・モルト・アパッシオナート ホ短調、ソナタ形式。オーケストラによる序奏が無く、上述の通りほぼ休むことなく独奏ヴァイオリンが主題を提示している。弦楽器の分散和音に載って独奏ヴァイオリンが奏でる流麗優美な第1主題は、大変有名な旋律で、商業放送などで親しまれている。第2主題は木管楽器群で穏やかに提示される。これを独奏ヴァイオリンが引き継ぎ、展開部となる。展開部の終わりにカデンツァが置かれていることもこの作品の特徴であり、その音符が全て書き込まれているのも、この時代としては画期的なことであった。カデンツァの後で再現部となり、最後に長いコーダが置かれている。ここで独奏ヴァイオリンが華やかな技巧的な音楽を繰り広げ、最後は情熱的なフラジオレットで高潮して終わる。

(李相昊)

### G.エルガー / チェロ協奏曲 第1楽章

《チェロ協奏曲ホ短調》Op.85 は第一次世界大戦中に作られた、エルガー晩年の傑作である。第一次世界大戦は、1914年7月28日に始まり、1918年11月11日に終了した。この頃ドビュッシー、フンパーグなどの新しいスタイルがイギリスに流入した。その後、エルガーの時代が始まった。しかし、戦争の残酷さと自身の精神状況や肉体の拷問は、エルガーを非常に苦しめた。彼は当時、音楽を書かないと誓ったこともあり、戦争中に自分の多くの友達がドイツ人を擁護し、体の苦痛を加えて、彼は落ち込んで創作をやめた。1919年、エルガーは妻アリスの励ましでイングランド南部の田舎で休暇を過ごし、のんびりした環境がエルガーの創作の考えを湧かせ、1919年に彼の生涯を代表する作品《チェロ協奏曲》Op.85を創作した。

(許露露)

### A.ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 第2楽章

《チェロ協奏曲ホ短調》作品104はドヴォルザークの名作であり、チェコの民族音楽の要素も見られるといわれる。三つの楽章から構成され、1896年ロンドンで初演された。その第2楽章はト長調、4/3拍子でA B B Aカデンツァ・コーダ。主題は導音の#ファが回避されていてト長調というよりはボヘミアの民族音楽の旋法を思わせる。この楽章は、作者の強い郷愁が反映した。楽章の中間部には、1887年という早い時期に書かれた作者自身の《4つの歌》作品82の第1曲〈私を一人にして〉のメロディが引用されている。第2楽章は、チェロという楽器と作曲家の抒情が融合したため、歌のような幅広い音域での演奏、ヴィブラートの充実などを把握する必要がある。また、広く深い旋律を奏するため、運弓は鍵である。重く悲しい感情を映し出すためには、連続して弓を動かさなければならない。

(喻祥洲)

### P.ヒンデミット / 白鳥を焼く男 第3楽章

白鳥を焼く男は、P.ヒンデミットのヴィオラ協奏曲の一つ。B.バルトークやW.ウォルトンの作品と並んでヴィオラ奏者の中核的なレパートリーを為している。1935年に作曲され、同年11月14日に作曲者自身によってアムステルダムで初演された。3つの楽章はそれぞれ別々の中世のドイツ民謡に基づいており、そのため時に「古い民謡から作られた協奏曲」などと評される。人騒がせな曲名は、直訳すると「白鳥を回す人」であり、終楽章が「あなたは白鳥を回す人ではありませんね?」という民謡を原曲としていることに因んでいる。「白鳥を回す人」とは、白鳥の肉を刺した串を回しながら火で焙り焼く人を指す。作品は多くの点で近代音楽の様式の要素を反映しており、時に耳障りな和声進行が意図的に使われている。

(加藤 可奈子)

## W.A.モーツァルト / ヴァイオリン協奏曲 第5番 第1楽章

モーツァルトはヴァイオリン協奏曲を5曲残しているが、どれも若い頃に短期間で作曲された。今回演奏する5番も書かれたのは彼が19歳の頃である。『トルコ風』という愛称で親しまれているようにフランス音楽の優雅さとドイツ音楽の堅苦しさに加えて、トルコの香りがする曲だ。1楽章 アレグロ・アベルト イ長調 ソナタ形式 アベルトとは、イタリア語で開放的などという意味である。オーケストラの序章から引き続き、ソロが優雅なメロディで案内する。その後パーティ会場の扉を開けたように華やかに音楽が進む。その後穏やかなソロが奏でられ、またはつらつとした主題に戻り、華々しく終わる。

(筱崎 愛)

## A.ロッタ / ヴィオラ協奏曲 in E FLAT BI 545 Andante

イタリア、ミラノの約30km南にあるパヴィアにて生を享けたアレッサンドロ・ロッタ(1757-1841)。ヴァイオリンとヴィオラの名手でもあったロッタはパガニーニの師であったことでも有名である。当時より新たな奏法、超絶技巧などを取り入れた彼はヴァイオリン、ヴィオラの協奏曲を多く残しており、特にヴィオラの為の作品は昨今のヴィオラの重要なレパートリーとされている。冒頭は上行形のスケールで華やかにオーケストラの幕開けから、オーボエとチェロの対話、牧歌的なホルンの旋律など約2分強の前奏を受けてソロヴィオラが登場する。ヴィオラならではの甘美で奥深い旋律とオーケストラとの調和、次々と変化していく旋律、時折見せる短調、次第に移り行く技巧的なパッセージ、ストーリー性溢れる作風は聴く者の心を捉え、あっという間に終わってしまう感覚に陥るであろう。

(AC 鈴木 研吾)

## A.ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 第2楽章

チェリストにとっては避けて通ることのできない曲で、「チェロ協奏曲」の王様のような存在です。アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)はチェコの国民的作曲家です。1894年(53歳)11月から翌年2月にかけて作曲されたのが、この《チェロ協奏曲》です。ボヘミアのチェロ奏者で友人のハヌシュ・ヴィハンからの依頼で書かれた作品。初演は帰国後の1896年3月19日にロンドンで、作曲者自身の指揮で行われました。当のヴィハンは独奏部分が難しすぎるとして、レオ・スターンというチェリストが初演を担いました。後にチェコでの初演はヴィハンが行なっていて、作品は彼に献呈されます今回演奏する〈第2楽章〉ではクラリネットとチェロの独奏が絡み合っており、愛のデュエットが美しく奏でられました。楽章の途中で独奏チェロが歌う切ない旋律は、自作歌曲の〈わたしにかまわないで〉がもとになっています。かつて恋をしたヨゼフィーナが危篤と知らされて、ドヴォルザークはかつて片思いをした彼女がよく歌っていた自作を引用しました。

(蛭原 一智)

## P.I.チャイコフスキー / ヴァイオリン協奏曲 第1楽章

世界中で最も人気のあるヴァイオリン協奏曲のひとつであるこの曲は、ラロの「スペイン交響曲」に触発され、1878年に旅先のスイスにて1ヶ月足らずという短期間のうちに仕上げられた。ブラームス、メンデルスゾーンと同様に、唯一のヴァイオリン協奏曲で、チャイコフスキー特有のロシアの民族的な色彩と力強い情熱が曲全体を覆っている。加えて彼が得意としたバレエ音楽を思わせる優雅な旋律、オーケストラとの緻密なアンサンブルが特徴的である。最初ヴァイオリニストのレオポルト・アウアーに献呈されたが、「演奏不可能」として長らく放置され、聴衆や批評家からは「悪臭を放つ音楽」などと酷評を受けていた。しかし初演者のアドルフ・ブロッキーはこの曲の真価を見抜き、批判に怯むことなく各地で演奏を続け、その熱意により長い年月をかけ評価されるようになった。

(宍戸 育実)

## ■メンバー

### 【ヴァイオリン】

穴戸 育実      篠崎 愛      李相昊      長沢 明日香<sup>♪</sup>      米倉海陽<sup>♪</sup>  
井上 海燦<sup>♪</sup>      勝部 小夏<sup>♪</sup>      鈴木 利々果<sup>♪</sup>

### 【ヴィオラ】

加藤 可奈子      工藤 海青      古川原 広齊<sup>#</sup>

### 【チェロ】

有馬 憧      原 美月\*      大友 美侑\*  
蛸原 一智      許露露      喻祥洲

### 【コントラバス】

安田 廉\*      高野 響花\*

### 【電子オルガン】

内海 菜々美      稲葉 絢音      伊藤 友香      窪山 花      向田 真未  
孫宇鵬      王鴻飛      李清致      赤塚 博美<sup>#</sup>

♪…賛助 \*…演奏補助要員 #…教員

企画・運営責任者 沼田 園子(ヴァイオリン)

指揮      山本 祐ノ介

電子オルガン      赤塚 博美



### 指揮：山本 祐ノ介

1963年、両親ともに作曲家の家庭に生まれ、早くから母・正美にピアノ、作曲を、父・直純に指揮の手ほどきを受ける。又、チェロを斎藤建寛、堀江泰、R.フラッシュ、H.シャピロの各氏に師事。東京芸術大学を卒業後、同大学院を修了。第21回民音室内楽コンクール第1位入賞(ハレーストリングクアルテットとして)。香川県芸術選奨受賞。2014年日本音楽コンクールチェロ部門審査員。東京芸大附属高校講師、都立芸術高校講師、ハレーストリングクアルテットチェロ奏者、芸大フィルハーモニア首席チェロ奏者、東京交響楽団首席チェロ奏者などを経て、現在ソロチェリスト及び指揮者として活躍している。'95年からサントリー小ホールに

於いて行われ6回にわたるチェロ連続リサイタルでは、バッハの無伴奏組曲全曲、ベートーヴェンおよびブラームスのソナタ全曲を含む意欲的なプログラムで好評を博し、注目を浴びた。また、'02年に国際チェロアンサンブル協会の主催で行われた日韓300人のチェリストによる「日韓親善チェロコンサート」を指揮しての成功以来、日本チェロ協会主催のサントリー大ホールで行われた「チェロコンGRESS・イン・ジャパン 2011」において、プロ・アマ合同180人のチェロアンサンブルを指揮するなど、チェロアンサンブルに無くてはならないキャラクターとして演奏、指揮、楽曲提供を行っている。近年は指揮者としての活動も多く、京都市交響楽団、新日本フィル、東京シティフィル、ほか多くのオーケストラと共演。2011年6月から東京ニューフィルハーモニック管弦楽団の常任指揮者に就任した。ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ、香川ジュニア・オーケストラほか、各地のアマチュアオーケストラの指導も行っているほか、2014年には日緬外交関係樹立60周年記念の事業の一環としてのヤンゴン国立劇場に於けるコンサートをミャンマー国立交響楽団との共演により大きな成功に導いた。2015年からは同交響楽団首席指揮者。クラシックコンサートはもとより、アニメーションや戯曲への作曲を含む広い分野で活躍しているが、そのすべての活動に於いて、人々の心に安らぎと勇気を与えるため、心あたたまる表情豊かな音楽を追究している。CD「愛のあいさつ」「魅惑のチェロワールド」、DVD「チェロで愛を歌う」、楽譜「チェロ名曲ピースセレクション」などの出版物がある。